

令和7年度 湯梨浜町立湯梨浜中学校 学校経営方針

『湯梨浜町教育の基本理念』

「志をもって 共に学び 明日を拓く 湯梨浜町の人づくり」

- ・町の伝統と文化を尊重し、将来にわたって町を愛し、自立して多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の担い手となる人づくりをめざす。

1 校 訓

『三智創造』

- ・湯梨浜中学校に特色ある三つの地域の人材が集い、ともに学び、創造性豊かな人間形成をめざし、未来を見据え、「開智（知識を広げる）・仁智（思いやりがあって賢い）・叡智（優れた知恵）」を修めた人材が新たな智を創造する。

2 教育目標

- （1）知育・徳育・体育の向上をめざし、未来を切り拓くたくましさを身につけた生徒の育成
- （2）人権を尊重し、人と人とのつながりを大切にし、思いやりのある心豊かな生徒の育成
- （3）ふるさとに関心を持ち、ふるさとを愛し、地域社会に貢献しようとする生徒の育成

3 めざす生徒像

- （1）【**立志**】高い志を立て、その実現のためにともに学び合い、未来を創り出そうとする生徒
- （2）【**親愛**】自らよりよい人間関係を築き、思いやりを持ち、ともに伸びようとする生徒
- （3）【**創造**】夢や目標に向かって自ら課題を発見し、粘り強く取り組み、課題を追求しようとする生徒
- （4）【**郷土愛**】ふるさとを愛し、地域社会の発展に貢献しようとする生徒

4 めざす教師像

- （1）常に生徒に寄り添い、範を示し生徒を成長させられる教師
- （2）1時間1時間の授業を大切にできる教師
- （3）人間性豊かで、生徒・保護者から信頼される教師
- （4）自分に厳しく、謙虚に学び続ける教師

5 めざす学校像

「湯梨浜中学校で学び、生活できたことを誇りに思える学校」

- （1）生徒が日々成長でき、明日も学校に行きたいと思える学校
- （2）教職員が充実感をもって働ける学校
- （3）保護者から信頼され、地域とともにある学校

6 本年度の重点目標

（1）自らの進路を切り拓く確かな学力の育成（主体的・対話的で深い学びを目指して）

- ①校内授業研究等により協同学習の授業づくりに努め、主体的に学ぶ生徒の育成を図る。
- ②学習規律の定着と家庭学習の充実を図るとともに、基礎学力の確実な定着に努める。
- ③タブレット端末を効果的に活用した授業実践を進め、生徒の情報活用能力、情報モラルの育成に努める。

(2)豊かな人間性の育成

- ①授業および教育活動全体で、道徳教育、人権教育の充実を図り、よりよい人間関係づくりに努める。
- ②生徒会活動、学級活動、学校行事を通して、集団としての自治能力、生徒が自ら判断しながら行動する力の育成に努める。
- ③掃除の充実、時間の厳守、挨拶の徹底等の当たり前のレベルの向上を図る。

(3)健やかな体の育成

- ①保健体育の授業、部活動をはじめとする様々な教育活動を通して基礎体力を高めるとともに、食育の推進を図る。
- ②生活リズムの確立と自立的な健康づくりに努める。

(4)教育上の諸課題の解決

- ①特別支援教育の充実を図り、支援を要する生徒個々の成長を促す指導に努める。
- ②長期欠席の未然防止に努め、不登校生徒の減少を図る。
- ③郷土芸能、ふるさと探訪、職場体験、町への提言等、地域の教育的資源をいかした活動を通して、地域に貢献できる生徒の育成に努める。

【具体的な取り組み】

○学習指導の充実

- (1)協同学習の理念を活かし、授業改善を図りながら、主体的・対話的で深い学びを実現する。
- (2)学習課題の提示を工夫するとともに、授業の流れを明確に示すことにより、学習の見通しを持たせ、生徒全員が目標の達成を実感できる授業づくりに努める。
- (3)学習の振り返りを大切にし、次の学習への意欲を高め家庭学習へもつなげる。一人で学べる宿題を工夫し家庭学習の習慣化を図り、基礎・基本の確実な定着に努める。
- (4)タブレット端末のメリット、デメリットを明確に把握したうえで、効果的に活用した授業実践を進め、教科の育てたい資質・能力を育む。
- (5)共通実践を徹底させることにより、学習規律の定着を図る。また、タブレット端末の使用に関する指導、講演会等を通して情報モラルの育成に努める。
- (6)個々の生徒の実態を捉え、長期的な視点で適切な進路指導に努める。

○人権教育の推進

- (1)教科等の指導や特別活動などあらゆる機会を通じて、お互いの立場や気持ちを大切にし、認め合い、支え合い、高め合う温かな人間関係づくりを進める。
- (2)一人ひとりを大切にしたい仲間づくりをもとに、学級づくり・学年づくりを進める。
- (3)日常生活での偏見やいじめ、差別や人権侵害等を具体的に取りあげて指導し、解消することの大切さとその方法を考えさせる。
- (4)PTAや地域との連携を深め、様々な人権課題解消の推進を図る。

○道徳教育の推進・文化的環境の充実

- (1)人権教育との関連を図りながら日常における道徳的实践力を高め、豊かに生きる力を育む。
- (2)全教職員の関わりを積極的に進め、多様な価値観に触れながら考える活動を進める。
- (3)委員会活動やボランティア活動に積極的に取り組み、生活環境の美化・整備に努める。
- (4)教室内や廊下の掲示を工夫するなど、積極的な仕掛けを図りながら生徒のよりよい道徳的価値観を形成する。

○特別支援教育の充実

- (1) 特別支援教育に対する正しい理解と認識を深め、校内支援体制の充実を図る。
- (2) 進路選択を視野に、一人一人の能力を伸ばす学習指導の工夫・改善と充実に努める。
- (3) 個々の生徒の実態を把握し、「個別の支援・指導計画」を活用した支援の充実を図る。
- (4) 保護者・関係機関との連携を密にし、生徒・保護者の願いを大切に丁寧な指導を心がける。

○学年・学級経営の充実

- (1) 「ともに伸びる精神」を大切に学級・学年づくりをめざす。
- (2) 生徒に育てたい資質・能力を明確にもち、意図的な仕掛けを工夫する。
- (3) 全職員が担任のつもりで短学活、給食・掃除指導にあたり、全学級の質的向上を図る。
- (4) SST等の活動や、hyper-QUの結果分析を活用して学級づくりを進め、より良い人間関係づくりに努める。
- (5) 教職員間の情報共有、共通理解を大切にし、生徒の実態や取り組みについて語り合える教師集団をめざす。
- (6) 積極的な情報発信を行い、開かれた学級・学年づくりに努める。

○生徒指導の充実

- (1) 一人一人に応じたきめ細かな指導を心がけるとともに、集団としての成長を図る。
- (2) 教育相談や個別指導を充実させて生徒理解を進めるとともに、教師間での情報の共有に努める。
- (3) 生徒との活動時間を大切にして行動（活動）の変容を見取り、適切な評価に努める。
- (4) 基本的生活習慣の定着をめざして継続的な指導に心がけ、生活力の向上を図る。
- (5) 日頃から些細なことでも情報交換を行い、適切な対策の検討と素早い対応を行う。
- (6) 保護者との連絡をこまめに行い、信頼関係の確立に努める。
- (7) 生徒自身にめざす姿を具体的に意識させ、特にそうじ、あいさつ、時間に関しては教職員自らが範を示し、指導する。

○健康と体力の増進

- (1) 健康教育を推進し、自己理解を進め、心身ともにたくましく生き抜く力を育てる。
- (2) 異学年の望ましいつながりを深めるよう学校行事や部活動の充実を図る。
- (3) 学校保健計画・学校安全計画に基づいた実践を進め、正しい知識と実践力を育む。

○特別活動の充実

- (1) 生徒会活動の活性化を図り、生徒の自主性や発想力を活かした活動を推進する。
- (2) 学校行事は、生徒会執行部を中心に生徒自らが計画進行できるよう努める。
- (3) 図書館教育を充実させ、本に親しみ自ら進んで読書に取り組める生徒を育成する。
- (4) キャリア教育の充実に努め、個々に応じた進路指導の充実を図る。
- (5) ボランティア活動の推進を図り、進んで行動し、協力し合う心を育む。

○小・中連携、保護者・地域社会との連携

- (1) 小中連携を校務分掌に位置づけ、9年間の成長を視野に入れた教育活動を展開する。
- (2) 学校運営協議会と連携し、来校者や来校回数を増やし、学校教育への協力を促進する。
- (3) 参観日・学校公開、ホームページ、学校だより等を活用し、教育活動の公開を行う。
- (4) 地域の行事や活動に進んで参加し、地域に貢献できる生徒の育成に努める。
- (5) 福祉体験学習やボランティア活動等に積極的に参加し、地域交流を推進する。
- (6) 伝統文化の保存・継承や、地域行事への参加をとおして地域貢献を果たす。

○今日的な課題への対応

- (1) 情報教育を推進しタブレット端末を生かした学習指導の研究と実践を進める。
- (2) とっとりメンター方式の初任研を活用し、職員の世代間ギャップが生じないよう、温かみある人間関係の中でのO J Tを実践し、ともに学び成長しあう職員集団を目指す。
- (3) 学校教育における様々な活動を充実させることによって、長期欠席の未然防止に努め、不登校生徒の減少を図る。